

若者たちによる高専生支援プロジェクト — “高専ベンチャー”と“KOSEN's” —

東京都立航空工業高等専門学校 名誉教授 (元校長)
公益財団法人日本無線協会 専務理事 島田 一雄
高専ベンチャー代表 弦本 卓也
KOSEN's 代表 阿部 智樹



“高専生企業訪問ツアー 2013” 記念撮影 (2013.3)

はじめに

本電波技術協会報 FORN には、田中征治前電波技術協会理事長のお勧めにより、2011年3月号から、毎年3月号と5月号に、高専人（高専生・高専OB・高専関係者）の活躍を毎号2編ずつ紹介してきている。一方、国立高専機構のご協力のもとに、高専人の活躍を高専現場の学生、教職員に周知し、教育・研究に活かしてもらうことを目的として、FORN 全号が全国高専の図書館に送付されている。

これ迄の掲載記事は、高専の教育・研究の実例紹介、衛星設計コンテスト・(独)情報通信研究機構主催の“起業家甲子園”などのイベントにおける高専生の活躍紹介、さらには、高専OBネットワークの代表的な会で、約20年の活動実績を誇る“ヒューマンネットワーク高専(HNK)”と約6年の活動実績を持つ“高専カンファレンス”についても紹介した [1] ~ [14]。

ここでは、発足して日は浅いが、非常にアクティブに活動している、2つのグループ“高専ベンチャー”と“KOSEN's”の高専生支援プロジェクトを紹介する。

“高専ベンチャー”ことの起こりとその取組み [15]

“高専ベンチャー”は、2012年2月に、とあるきっかけで長野高専の専攻科生に会い、その実力に感動した弦本卓也（非高専OB、明治大学理工学卒、当時25歳）が立ち上げた組織である。

「高専にはこんなに優秀な学生がいるのか！」と、3

月の春休みには、交通費・宿泊費・食費を彼個人で全額負担して、最初のイベントとなる、2週間の“プロダクト開発合宿”を企画した。異なる高専から参加した情報系の5名の高専生が、自由な発想で企画から開発までを行った。熱意を持って、学んだ技術をものづくりに活かしていく過程を目の当たりして、弦本は高専生の可能性をもっと世の中に広めていきたいと思い、高専を応援しようと決意したと言う（写真1）。

かくして、高専ベンチャーは、高専生の才能と可能性を世に知らしめることを目的とした活動を開始した。2012年は、5月にリモートインターンシップ、8月に高専生企業訪問ツアー、11月に起業家イベントへの高専生特別招待、12月に石川高専での学内就職セミナーを実施した。なお、イベントに参加しやすい



写真1 “プロダクト開発合宿” 風景

ように、協賛企業のご支援を得て、交通費・滞在費・食費は高専ベンチャーで支給する形を確立している。

2年目の2013年3月に開催した“高専生企業訪問ツアー2013”を例に取り、イベントの開催スケジュールのパターンを以下に示す。

- 2月20日～3月19日：インターネットによるリモート（遠距離）開発（Skypeでの面接により選考された全国高専17校の本科1年生～専攻科生2年生26名の学生を8チームに分け、事前のチームでの開発）
- 3月20日：発表コンテスト（@協賛企業）（チーム毎に指定された訪問企業の事業紹介・新規サービスの提案）
- 3月21日～22日：企業訪問ツアー（@企業各社）（企業8社のオフィス訪問、社長・高専OB・人事社員による企業紹介）

学生は異なる高専の学生とリモート開発を1か月行っているが、会うのは発表コンテスト当日が初めてである。にもかかわらず、各チームのプレゼンはなかなか上手で、高専パワーを企業の方々に知ってもらう絶好のチャンスとなっている。企業訪問ツアーで学生は企業への理解が深まり、企業には高専生の実態を知ってもらえる。加えて、参加学生は仲良くなり、イベント終了後も連絡を取り合い連携を深めることになり有意義である。

なお、リモートでのチーム開発の取り組みについては、9月に奈良高専で開催されたISATE2013で論文発表を行い、教育的な意義が高く評価された[16]。

以下に、同様な開催スケジュールで行われた主なイベントを列挙する。

- 2013年8月25日～31日：“高専生合同インターン2013”（参加学生20名、企業8社）
- 2013年12月26日：“高専生開発コンテスト2013”（参加学生15名、企業2社）
- 2014年3月19日～21日：“高専生企業訪問ツアー2014”（参加学生14名、企業8社）

これ迄に、40以上の高専から延べ約100名を超す学生の参加があり、延べ30社を超す企業からご支援をいただいている。

“高専ベンチャー”参加学生の成長と今後の運営

高専ベンチャーのイベントに全国から馳せ参じる学生たちは、もともと積極性のある学生であるが、参加

学生同士の交流による相乗効果、企業の方々との交流、インターン経験などによって、さらに大きく成長して帰り、各自の高専での活動はもちろん、高専の枠を越えた広範な活動をしていることが散見され大変喜ばしい。後述する“KOSEN's”は全国ベースの活動の一例である。

“全国高専生合同インターン2013”に参加した岩渕美咲さん（福島高専コミュニケーション情報学科4年生）は避難生活をしていると涙ぐむ場面もあったが、11月の先輩たちの会HNKの一関総会にも島田の勧誘に応じて参加するなど将来への希望を見出し、念願のスペイン語研修のために、4月に単身スペインへ飛び立って行き頑張っている行動力は素晴らしい。個人への高専ベンチャー効果の現れの一例として紹介した。

“高専生企業訪問ツアー2014”で、甲斐甲斐しく参加学生の世話をしていた見かけぬ青年に島田は声をかけた。彼は当日担当の高専ベンチャースタッフの澤木陽太郎さんと弦本代表の友人の宮崎真人さんという大学2年生だった。「高専生は素晴らしい！大学生は勉強していない、自分は文系だが、文系理系の枠を越えて手を携えて行く必要がある。今後も高専生を支援し続けますよ！」と嬉しい返答。高専OBではない高専ベンチャースタッフの高専評価、高専支援は非常に嬉しく、彼らと高専学生等のスタッフが協力して、今後とも新たなイベント企画を展開し、高専ベンチャーの掲げているミッション“高専生の可能性をもっと世の中に！”の継続遂行をして行くことに大いに期待する。

“KOSEN's”の発足とその運営 [17]

KOSEN'sは、2013年8月中旬に、高専専攻科2年生の阿部智樹（仙台高専）、三原基（旭川高専）、田口拓明（香川高専）の3人によって立ち上げられたWebメディアサイトである。阿部と三原は、2013年3月の高専ベンチャー主催の“高専生企業訪問ツアー2013”の参加者であり、阿部はイベント終了後に島田に、「新しいことをやりたいので相談を！」と電話してきていた。彼ら3人は着々と準備を進めていた模様で、7月に北大で開催された“高専カンファレンス in 北海道3”で、三原がKOSEN's立ち上げについて発表しているのをライブ中継で見ていた島田は、「あれっ、何か新しいことを始めたな」と注目していた。8月に夏の高専ベンチャーのイベント“高専生合同インターン2013”の会場で、オポザーバー参加の阿部から「KOSEN'sを立ち上げた」と告げられ、「先日

のカンファレンスで発表があったが、それか？」との問いに、彼は「そうです」と得意そうに答えたのである。これで3月の彼からの電話に合点がいった。高専ベンチャー参加者が新たな活動を企てることは素晴らしいことで、このような連鎖反応を起こす若い高専パワーに今後とも大いに期待したい。

2014年度からは阿部が就職、他の2人は大学へ進学するが、引き続き、3人が核となり、現役高専生・専攻科生の協力を得て、KOSEN'sの運営を継続するという。大変喜ばしいことで、なお一層の充実、発展を期待したい。

“KOSEN's” ができるきっかけ - 阿部の手記より -

2年前の就職活動中の他高専生たちとの出会いが私の人生を変えた。高専での生活や、フィンランドでの半年の留学生活などを通じて様々な出会いを経験してきたが、他の高専生との出会いは初めての経験だった。話をしているうちに“共通項”が多いことに驚いた。意識はしていなかったが、高専生は全国に約6万人ととてもマイノリティな存在である。そういった高専生が集まれば当然話は盛り上がることになる。そして、その盛り上がりは一時の盛り上がりではなく、長く続くことになるケースが多いように思う。

就職活動中に、とても不思議な感情に襲われた。就職率100%と言われていた高専生の就職活動に疑問を覚えたのだ。元々はやりたいことがあって、高専に入ったのに、それをいつの頃か忘れて、あきらめ、楽な道を選ぼうとしている。本当に自分のやりたいことって何なのだろうか、自分はどんなキャリアを歩みたいのだろうかと考えた時に高専卒の偉大な先輩方がどのようなキャリアを歩んでいるのか、どのように活躍しているのかが分からないことに気付いた。それらをもっとオープンにしていきたいという3人の強い思いから、高専生向けメディアサイト“KOSEN's”が生まれた。

“KOSEN's”の仕組み

KOSEN'sは、写真2に示すような、高専生・高専卒大学編入生・高専関係者を対象としたWebメディアサイトである。主なコンテンツは、各高専で行われているイベント、授業の様子、高専生活で必要な学業に関する情報発信、高専生向けのキャリア支援、高専生・高専OBの方々へのインタビュー記事等である。

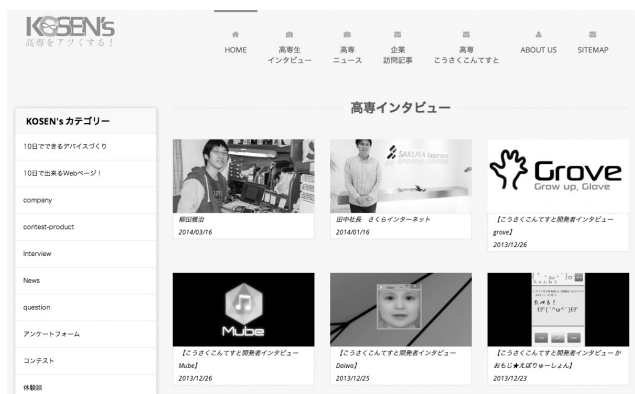


写真2 “KOSEN's” Web サイト

このほか、10日のできるデバイスづくり、10日のできるWebページなどのページもある。

これ迄、インタビュー記事には、高専卒で起業されたさくらインターネットの田中邦裕代表取締役をはじめとして、高専卒で活躍中のエンジニア、海外で活躍されている高専卒の方々、数名が登場している。先輩たちに負けじと活発に活躍中の10人ほどの高専生も登場している。

これらのサイトは、高専生及び高専OBの大学編入生をメインに、多くの企業のご支援によって運営されている。高専生が、高専OBに直接アポを取りインタビューをしたり、Skypeを使って遠方の高専生にインタビューをしたり、高専生を積極的に採用していただいている企業を訪問して、高専生の魅力を伝えるなどさまざまな活動を行っている。

KOSEN'sの活動の場はWeb上だけに留まらず、これ迄の半年間をかけて、高専生向けの開発コンテンツや企業説明会、就活イベント等、さまざまなイベン



写真3 第1回高専生向け就職シェアハウス記念写真 (2014.2)

トを行って来た。

写真3は、2014年2月に1週間行われた就活イベントの際の記念写真である。旅費・滞在費はKOSEN's持ちで開催されたイベントで、企業との面談も行われた。北は釧路高専から、南は沖縄高専に及ぶ全国高専から計20名の高専生が集まり、就活についての意識を高め、いろいろな経験を積んだ。普段の高専生活と同じように皆で同じ釜の飯を食い、高専入学時と同じように「本当にやりたいことは何なのか」、一人一人が自身の内面を深く見つめ直し、将来のキャリア探しに真剣に挑戦したことは大変意義深い。

阿部は、「イベントを通して、高専生はとて多くの方々に評価されている、とても期待されているということが分かった。自分も過去に多くの企業の方々とお会いしてきたが、皆さん口を揃えて「高専生は素直でとても優秀だ」と言って下さる。多くの面を評価した上で、総じて高専生は優秀だと判断されているのだと思う。自分の可能性を勝手に判断して狭めてしまっている高専生が多いと思うが、企業サイドは高専生を高く評価して下さり、活躍するための門を開いて下さっている」と後輩の高専生に熱いエールを送っている。さらに、彼は「社会人になってからも、高専生に多くの活躍の場を提供して、「経験の提供」、「経験の継承」を行い、自分を育ててくれた高専に恩返しをして、高専の発展に寄与したい」と語っている。

おわりに

島田がかかわっている発足3年目の“高専ベンチャー”と発足8ヶ月の“KOSEN's”、2つの若々しい高専生支援プロジェクトを紹介した。

これ迄は、両プロジェクトともソフトウェア專業のIT系ベンチャー企業から会場提供、活動資金提供等のご支援をいただいていたが、今後はハードウェア業界にもお声掛けして、ご支援をいただくことで、高専生がソフト、ハード両面の実力を磨き、それらを企業、社会にアピールする機会を増やすことが必要であり、このことが結果的に高専の発展につながると考える。

読者の方々から協力企業の紹介等、ご支援をいただければ幸いである。

文献

- [1] 島田：“誕生半世紀の高専と衛星設計コンテストならびに宇宙分野で活躍する高専OBの紹介”，電波技術協会報 FORN, No.279, pp.24～27, (2011.3) .
- [2] 石川, 中野, 若林, 島田：“世界最年少級の学生による衛星開発H-II A ロケット相乗り打ち上げまでの道のり”，電波技術協会報 FORN, No.279, pp.28～31, (2011.3).
- [3] 島田，“高専人のネットワーク紹介と総務省とNICTのICT高専学生応援プログラム”，電波技術協会報 FORN, No.280, pp.28～31, (2011.5) .
- [4] 長澤：“流星バースト通信路観測網の構築～星に願いを～”，電波技術協会報 FORN, No.280, pp.32～36, (2011.5).
- [5] 島田：“学生の超小型衛星開発への登竜門「衛星設計コンテスト」20年のあゆみ”，電波技術協会報 FORN, No.285, pp.26～29, (2012.3) .
- [6] 今井：“木星から地球に届く謎の電波を探る”電波技術協会報 FORN, No.285, pp.30～33, (2012.3) .
- [7] 島田, 鈴木, 佐々木：“若者たちのめざましい活躍～高専生・若き高専OBの勉強会“高専カンファレンス”と総務省・NICTの若者支援プログラム“起業家甲子園高”，電波技術協会報 FORN, No.286, pp.34～37 (2012.5) .
- [8] 宮田：“アンテナ研究のための電波暗室手作り体験記”，電波技術協会報 FORN, No.286, pp.38～41, (2012.5) .
- [9] 北村, 三浦：“技術者教育における衛星設計コンテストの活用例～より実践的な技術者育成に向けて～”，電波技術協会報 FORN, No. 291, pp.22～25, (2013.3) .
- [10] 島田：“宇宙分野で花開いた高専OBの活躍—その1 ロケット打ち上げ—”，電波技術協会報 FORN, No. 291, pp.26～29, (2013.3) .
- [11] 島田：“宇宙分野で花開いた高専OBの活躍—その2 人工衛星づくり—”，電波技術協会報 FORN, No.292, pp.10～13, (2013.5) .
- [12] 南部：“資格試験を活用した無線技術者の養成プログラム—技術継承型エンジニアを育成するカリキュラムの模索—”，電波技術協会報 FORN, No. 292, pp.14～17, (2013.5) .
- [13] 梁川：“アルジェリア人質拘束事件で亡くなられた伊藤文博さんの追悼”，電波技術協会報 FORN, No.297, pp.20～23, (2014.3) .
- [14] 平社：“高専における宇宙工学分野のPBL (Project Based Learning) 教育”，電波技術協会報 FORN, No.297, pp.24～27, (2014.3) .
- [15] <http://www.kosen-venture.com/>
- [16] M.Koshino, T.Tsurumoto：“Kosen Venture's Efforts to Cultivate Mutual Understandings of Students and Enterprises through Co-development over the Web”，ISATE2013 (Sept.2013) .
- [17] <http://kosens.jp>